［平成 21 年度普及に移す技術］

［技術名］オキシテトラサイクリン水和剤によるウメかいよう病の防除方法

［要約］オキシテトラサイクリン水和剤によるウメのかいよう病の防除は、果実横径 10～15㎜時の基幹防除、自然災害２日後の選択防除が効果的である。

［キーワード］ウメ、かいよう病、オキシテトラサイクリン水和剤、防除方法

［担当］福井園試・ウメ研究グループ

［連絡先］0770-32-0009, 電子メールenshi@pref.fukui.lg.jp

［背景・ねらい］

かいよう病は、霰や強風などにより生じる傷から感染する。かいよう病に効果が高い殺菌剤は抗生物質のオキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤であるが、本剤の使用時期が収穫90日前までとなり、果実対象に使用できる抗生物質はオキシテトラサイクリン水和剤のみとなった。しかし、オキシテトラサイクリン水和剤単剤の本県の使用事例はなく、その防除効果を明らかにする必要がある。そこで、基幹防除および自然災害時の選択防除適期を解明し、オキシテトラサイクリン水和剤によるウメかいよう病の防除方法を確立する。

［技術の内容・特徴］

１．無防除でのウメ果実は、横径が 10㎜から 15㎜へ肥大するときに傷を受けると、かいよう病発病果率が増加する（図１）。そのため、オキシテトラサイクリン水和剤の基幹防除時期は、発病果率が増加する果実横径 10～15㎜の時期である（表１）。

２．自然災害により果実に傷が生じた場合は、オキシテトラサイクリン水和剤を２日以内に散布すると、かいよう病の防除効果が最も高い（図２、表１）。２日後以降の散布では効果が低下する。

［技術の活用面・留意点］

１．開花前の防除は、多発園や開花時期に果梗が黒く朽ちる症状に対して、銅水和剤(ボルドー液）を散布する（表１）。新芽にかかると薬害が発生するため、使用時期は、葉芽発芽前までとし、単剤で使用する。

［普及計画］

普及目標：ウメ栽培面積 100％（平成 25 年度）

普及対象：県内ウメ栽培生産者

普及に向けた対応：防除指針等記載によるウメ防除体系の変更、HPや成果発表会での技術情報提供

［具体的データ］

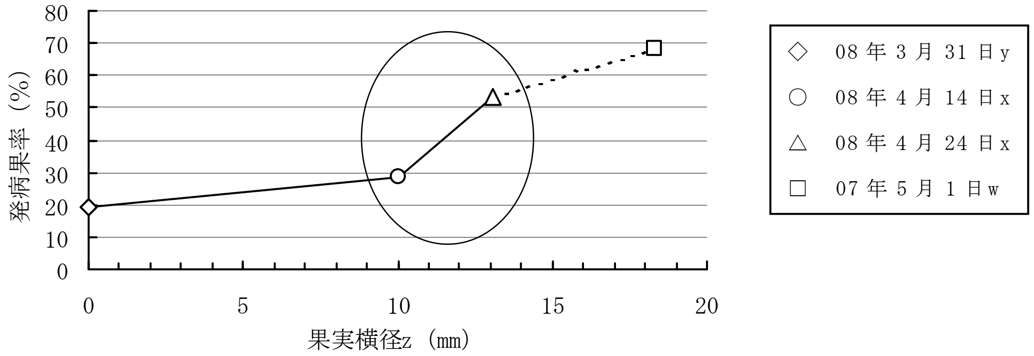

図１　無防除樹におけるかいよう病発病果率と果実横径の推移
z，標準樹の計測値を示す。y，降雹を観測。
x，10本に束ねた縫い針（太さ0.76mm）で人為的に幼果に傷付け。
w，11m/sの強風を観測。調査時期：青ウメ収穫時
*：供試品種10～11年生‘紅サシ’

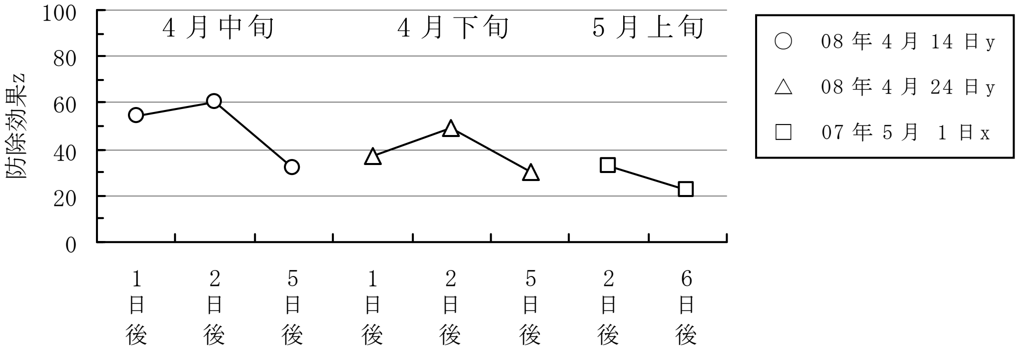

図２　果実の傷発生後防除までの日数がかいよう病発生に及ぼす影響
z，防除効果＝100－（試験区の発病果率）／（無散布区の発病率）×100
y，10本に束ねた縫い針（太さ0.76mm）で人為的に幼果に傷付け。
x，11m/sの強風を観測。調査時期：青ウメ収穫時
*：供試品種10～11年生‘紅サシ’

表１　かいよう病の防除体系

防除の種類	防除時期	薬剤名	使用時期
選択防除	開花直前～ 開花終了直前	銅水和剤（ボルドー液）	葉芽発芽前
基幹防除	果実横径10～15mm	オキシテトラサイクリン水和剤	収穫21日前
選択防除	自然災害^{z}2日後	オキシテトラサイクリン水和剤	収穫21日前

z，自然災害は降雹や強風をさす。

［その他］

研究課題名：白干ウメ・ネット収穫における新たな病害虫対策の確立

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：下野和彦、滝修三